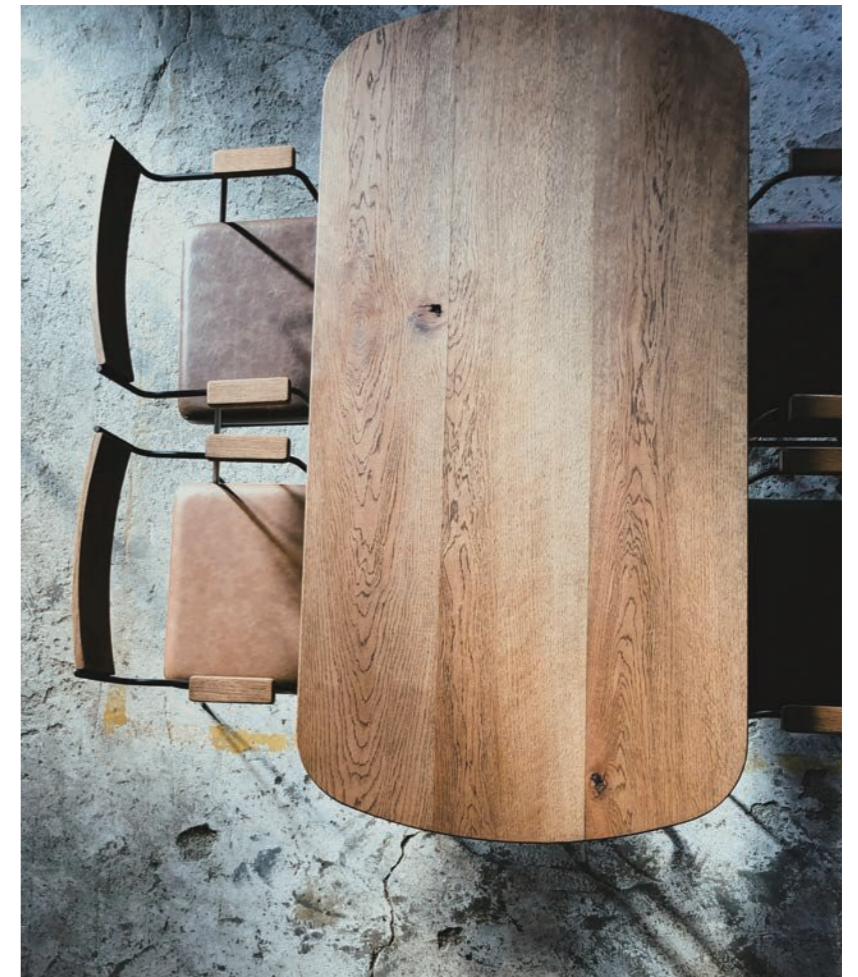


## 雑木から家具材へ ロククな社長が創る 広葉樹の新価値

「雑木」とひとくくりにされてきた広葉樹の価値を見直し、森の再生にもつながる「讃岐の木の家づくり」に挑む日美株式会社を紹介します。

### 県産「柞」の魅力を提案

米映画『アンタッチャブル』（1987年）のワンシーンから着想したという、角の円いシンブルなテーブル。名付けて「Capone table」。ふしの表情も生かし、力強くも温かみのある天板は、職人が手で磨き上げて仕上げます。素材は県産「柞」。ドングリがなる広葉樹の総称で、讃岐の里山でも古くから身近な木々ですが、乾燥



Capone table

と加工が難しいため家具用材としてのニーズがほとんどなかった。しかし、広葉樹は強度が高く、傷がつきにくい特徴があります。代表取締役社長の白井正人さんは「県産の広葉樹をどうしても使いたい」と、林業をはじめとする他事業者に連携を呼び掛け。木を伐るところから、製材・乾燥・家具製造・販売を通じて100%メイドイン讃岐のサプライチェーンを構築してきました。

無垢材とアイアン使いが特徴的で、和洋どちらにも馴染む「ROUGH & TROUGH」を軸に、趣の違うブランドを複数展開。商品のデザイン・設計の大半は白井さんが担当しています。商品は音楽や映画にインスパイアされたものが多く、かつてロククミュージシャンを目指し、今もバンド活動を続ける白井さんの文化的バックボーンがうかがえます。

日美は大正時代に創業。船舶エンジンなどをつくる鉄工所から装飾時計、金属脚のテーブルへと時代に合わせてものづくりの分野を柔軟に変化させ、1980年代から座卓・こたつをメインに手掛けるようになりました。

2009年に社長に就任した白井さんは、もともと同社の職人として腕を振るい、開発部長や統括部長などを歴任した叩き上げ。海外材を使うコスト重視・大量生産のものづくりから、「オリジナルメイド・



県産木活用の家具を体感できるカフェ



2025年1月 仕事始め集合写真



E7 table 梱包前の仮組み検査中



アイアン脚溶接作業



仲南町森林組合 土場伐採木選定



Capone table 天板 木地研磨



柞 テーブル材料選別作業



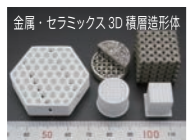
代表取締役社長の白井正人さん

### INFO

#### 地域企業の新製品開発や 技術の高度化を支援します！ ものづくりのパートナー 香川県産業技術センター

香川県産業技術センターは、技術相談・技術協力、依頼試験・分析、研究開発を業務の3本柱に、施設利用、人材育成、情報発信、研究会・講習会などの業務を通じて、地域企業の新製品開発や技術の高度化などを支援しています。

工業系部門と食品研究所が高松市郷東町に、発酵食品研究所が小豆島町にあり、地域企業の技術ニーズに幅広く対応していますので、お気軽にご相談ください。



問い合わせ先  
香川県産業技術センター  
☎087-881-3175  
発酵食品研究所  
☎0879-82-0034

メイドインジャパン」を重視する自社一貫体制に切り替えるかたわら、県産「柞」にこだわるプロジェクト「ははそストーリーズ」を同業3社とともに推進しています。

伐採現場や土場（伐採原木置き場）で材を選び、難易度が高いとされる「柞」の天然乾燥ノウハウも研究している白井さん。「県産広葉樹の供給は今のところ順調ですが、持続可能なサプライチェーンの確立と歩留まりの改善が課題。同時に認知度向上とニーズの拡大を図りたい」と語り、今後については「お客さまも自分たちも満足するものづくりを通じて、森の再生や循環型社会の発展に貢献したい」と力を込めます。斬新な発想と、ヒトやモノを活かす信念。ロククな社長が描く未来に今後も目が離せません。

問い合わせ先  
（公財）かがわ産業支援財団 取引支援課  
☎087(868)9904